

関東地方は今のところ空梅雨とっていい状況で水不足のことを考えますともう少し降ってもらいたいところでもあります。しかし、九州・四国地方では先日集中豪雨が続きもう降らないでほしいと思った方々もいらっしまったかと思えます。天気一つをとっても私たちがいかに思うようにならないところに生きているかがわかります。生きておりますと願いが叶うことと叶わないことが起こり、願いが叶うと嬉しい叶わないと苦しいとか虚しいとか心情が生じます。その意味では私の身边では最近願いが叶い嬉しいことが起こりました。

前回寺報でもお知らせ致しましたようにようやく土地建物を購入でき5月22日新たな場所で遷仏法要をおこなわせていただいたことは私の人生においても大きな願いが叶ったひとつの出来事でした。しかしまだまだ課題は山積しておりますが、ひとつの大きな目標を達成できたことに感謝と慶びの気持ちを感じております。

さて、いまのお話は私にとって最近起こった目立つ

たところの話でしたがこの話は「人生、生きておりますといろいろなことが生じます・・・」と言ったような話のなかで出てきがちな内容です。そのいろいろある人生の話にはよいこともあり、悪いこともあるという意味でしょうが、浄土真宗を聞く際、よい、悪いをどのようにとらえているのでしょうか？

まず気を付けなければならぬことは浄土真宗を聞くということは親鸞聖人の教えを聞くということです。では、その親鸞聖人が私達のいうよい、悪いをどのようにお考えであったか？

『歎異抄』のお言葉の中に「善悪のふたつ、総じてもって存知せざるなり」とあります現代語的に申しますと「何がほんとうに善であるのか、悪であるのか、善悪のふたつながら、わたしはまったくしりません(聖典セミナー訳)」といわれております。このお言葉を本願寺学僧であられた梯和上は「人間の知性の限界をはっきりと思い知った人だけが言い切ることでできる厳然とした力があります。自分の人生の行方を自分で知り通すことができないと

いうところに、人間の知性の根源的な悲劇性があるのです。」と解説されました。浄土真宗はお念仏の救いを聞く宗教です。

人間の持つ根源的悲劇性のさらに根底を見抜き、そこにスポットをあて慈悲の心をもってその問題を解決する為あらわれてくださっているのが南無阿弥陀仏(お念仏)の仏様です。親鸞聖人の人生はこの仏様と常に向き合っていた人生です。そこの視点から常にものをおっしゃるかたです。そこには自分の考えに頼り生き抜く人生のはなしは存在しません。阿弥陀仏という仏様に完全に頼り切った時に生じる慶びと慚愧(ざんぎ)の人生感です。当然、人間社会の秩序を乱さぬための社会ルールに基づく善悪の判断は必要不可欠ですが、浄土真宗のみ教えを聞くものは、その人間社会の秩序を乱さぬ善悪(道徳)と仏の智慧により知らされる善悪とをしっかりと聞き分ける必要が大切だと思います。浄土真宗は「聞きひらいてゆく仏教です」ご一緒に聴聞して参りましょう。

南無阿弥陀仏